

このたび ASCO-GI に初めて参加させていただきました。前回参加させて頂いた 2010 年 ASCO Annual meeting とはことなり、会場も 1 会場でかなり規模は小さかったのですが、内容が消化器に絞られている分、内容は充実しており、見どころは満載でした。

具体的に興味をひいたのは日本ではめったに聞くことができない新しい分子標的治療薬の話でした。

残念ながら胃癌患者における everolimus の追加の効果の検討 (GRNITE-1) や、大腸癌患者におけセツキシマブ投与に対する brimanib の追加投与の効果の検討 (AGITG C0.20 trial) では、共に progression free survival では有意差を認めるものの、overall survival では有意差を認めない残念な結果となってしまいました。転移性大腸癌患者に対する regorafenib の投与 (CORRECT trial) が唯一 progression free survival、overall survival 共に有意差をもって効果ありとなりました。効果自体はわずかな差でありましたが、最近多くの分子標的治療薬の trial がことごとく negative な結果を示す中で positive な結果をだした意義は大きいと思います。

また今回の発表者に多くの日本人が見られたことも、国際学会で多くの日本人が積極的に参加し、活躍していることを示しており、日本の腫瘍学の明るい未来を期待するとともに、次回は見学ではなく発表者として参加したいと強く感じました。

今回このような機会を与えて頂き誠にありがとうございました。この経験を活かして今後の日本の腫瘍学の発展に貢献できるよう努力したいと思います。